

令和7年1月16日に第25回の専門委員会が開催されました。国及び九州電力からの報告を受けて、委員から様々な意見や助言がありました。



川内原子力発電所の安全性の確認について

① 長期施設管理計画の認可申請に係る審査結果(説明:原子力規制庁)

九州電力が令和6年6月に原子力規制委員会に行った川内原子力発電所1、2号機の長期施設管理計画認可申請については、令和6年11月29日に認可されました。(申請内容は「原子力だよりかごしまNo. 151」の3ページに掲載しています。)

主な審査内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転期間延長認可(令和5年11月)後の国内外のトラブル情報や技術情報の知見が適切に収集され、それらの知見を踏まえた劣化評価が適切であること。 ● 長期施設管理計画に新たに追加された①製造中止品等に対する管理、②品質マネジメントシステムに基づく劣化管理が適切であること。
審査結果	法律に基づく基準に適合していると認められることから認可することを決定。

今回認可を受けた長期施設管理計画の期間

1号機：令和7年6月6日～令和16年7月3日(運転開始50年までの期間)
2号機：令和7年6月6日～令和7年11月27日(運転開始40年までの期間)

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 九州電力は、長期施設管理計画認可後において、運転に伴い生じる劣化を考慮しても発電用原子炉の維持に必要な技術上の基準に適合するよう、劣化管理を実施することが重要である。 ● 原子力規制委員会は、九州電力の劣化管理の実施状況について、九州電力が行う検査や保安活動を監視評価する原子力規制検査等で厳正に確認していく。
-------	--

委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門委員会では検証してきた運転期間延長に係る科学的・技術的な項目、論点に合致している。 ● 今回の長期施設管理計画については、原子力規制委員会において川内原子力発電所の運転の安全性に対し、適切に審査がなされたものと考えている。
--------	--

川内原子力発電所2号機の長期施設管理計画認可申請

令和7年1月31日、九州電力は、原子力規制委員会に対し、川内原子力発電所2号機の運転開始50年までの長期施設管理計画認可申請(計画期間:令和7年11月28日～令和17年11月27日)を行いました。県としては、今後、認可申請の内容について、県専門委員会において改めて御議論いただくこととしています。

② 県要請に対する原子力規制委員会及び九州電力の対応状況

県は、川内原子力発電所の運転期間延長に係る専門委員会の検証結果報告を踏まえ、県民やUPZ内の関係9市町の御意見も伺った上で、原子力規制委員会及び九州電力に対し、厳正な対応を令和5年7月に要請しました。現時点での要請に対する対応状況について説明を受けました。

	主な対応状況
原子力規制委員会	海外における規制の動向に係る情報や国内外の原子力施設の事故トラブルに関する情報を収集し、規制に反映すべき内容について、確認・共有を行っている。
九州電力	<ul style="list-style-type: none"> ● 原子炉格納容器鋼板の健全性や気密性については、今年度を実施した定期検査において異常がないことを確認した。 ● より確実に発電所の経年劣化に対応するための組織体制を整備する。

質疑応答	<p>Q. 原子炉格納容器の漏えい率検査では、どのように気密性を確認しているのか。</p> <p>A. 原子炉格納容器内を空気圧縮機で加圧し、24時間後の圧力低下量から漏えい率を算出し、気密性を確認している。</p>
------	--

委員会の方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 要請項目についてしっかり取り組んでいることを、専門委員会でも確認できた。 ● 取組の継続や将来の知見の拡充などに関する要請項目があるので、継続して取り組んでいただき、その状況について当委員会の中で継続的に確認していく。
--------	--

今回の専門委員会の内容は県ホームページに掲載しています

[鹿児島県 専門委員会](#)

検索



川内原子力発電所 状況報告

運転状況

(令和7年2月末現在)

1号機・2号機

通常運転中

89万kW(定格電気出力)で運転しています。



放射性廃棄物管理状況 (1・2号機合計)

	累積放出量	年間放出管理目標値
気体廃棄物	5.3×10 ⁹ ベクレル (令和6年4月～令和7年1月末現在)	1.7×10 ¹⁵ ベクレル
液体廃棄物	ND(検出されず) (令和6年4月～令和7年1月末現在)	7.4×10 ¹⁰ ベクレル
固体廃棄物	貯蔵量 27,886本 (令和7年1月末現在)	貯蔵容量 約37,000本 ※200リットルドラム缶相当本数

使用済燃料保管状況 (令和7年1月末現在)

	使用済燃料 (再使用可能な燃料を含む)	保管容量
1号機	1,400体	1,868体
2号機	1,090体	1,356体